

探究通信

2026 (第1号)

富山県立高岡高等学校

2026年6月発行

編集 企画研究部

令和8年度が始まりました。1年探究科学科の皆さん、探究科学科へようこそ！「探究する力と心」を磨いていきましょう！今号では、3月～5月に探究科学科の生徒が参加した活動の様子について紹介します。今後も様々な活動や発表の機会があると思います。アンテナを高く張り、積極的に参加しましょう！

1年探究科学科が科学探訪へ

令和8年3月16日(月)～18日(水)、1年探究科学科が、科学探訪に行ってきました。

1日目(3/16)：東京大学訪問(本校卒業生による講義、キャンパスツアー)、卒業生との懇談会

2日目(3/17)：東京都内各施設 班別研修、班別報告会

3日目(3/18)：つくば研究学園都市での研修

・午前：宇宙航空研究開発機構(JAXA)筑波宇宙センターの見学ツアー

・午後：「地質標本館」

「地図と測量の科学館」(5組)、「国土技術政策総合研究所」(6組)

以下に、1日目の卒業生との懇談会と2日目の班別研修について、生徒の声を紹介します。

《卒業生との懇談会》参加して下さった現役東大生・院生から伺ったアドバイスを紹介します。

【高校時代について】

- ・まずは勉強をすることが大切。同じ教材を繰り返し解いて、知識を定着させることがおすすめ。
- ・やりたいことを見つけて、すぐに実践・実行することが大切。

【大学、今後の進路について】

- ・やっておいてよかったことは、いろいろな人と話すことである。友達と違う考えに触れられて、すごく面白い。他学部の人や他校の人とも話している。
- ・人文社会科学科を卒業したが、大学で理系のことを勉強している。東大では2年次まで幅広く一般教養を学ぶことができる。
- ・今後ワーキングホリデーや留学を経験したいと考えている。生涯で何十年も働かなければならないのだから、大学では自分の好きなことを勉強したい。



《班別研修 -首都圏内各施設にて-》班別研修を終えての生徒の感想を紹介します。

「経験から学んだ、伝える力と挑戦の価値」(MIXI)

多くの人々にコンテンツを届けるために様々な工夫やこだわりをされていることがわかった。この経験を通じて、苦手なことにも積極的に挑戦して視野を広げること、そして自分の「好き」という気持ちを言葉にして発信していくことの大切さを実感した。

「他国を理解する」(外務省)

「井の中の蛙」にならず広い視野を持つには、他国への理解が不可欠である。そのための手段として、語学力や論理的思考力の重要性を学んだ。特に「現地の言葉話すこと」が、その国を深く知るために最も有効であるという言葉が強く心に残っている。

*その他の主な訪問先…文部科学省、経済産業省、気象庁、東京証券取引所、東京大学医科学研究所、国会議事堂、科学技術館、読売新聞社、TBS放送センター、サイバーエージェント、nishika株式会社など



探究活動の成果を外部大会で発表

★「京都大学ポスターセッション2025」に参加 ～同大百周年時計台記念館にて～

令和8年3月14日(土)「京都大学ポスターセッション2025」に人文社会科学科の課題研究英語2班が、「日本語『らしさ』を保持する翻訳とは」をテーマに発表しました。エリン・メイヤー氏の『異文化理解力』を読み、日本の創作物におけるLow-context化について3作品の漫画の日本語版と英語版を比較し、その結果を考察した内容を発表しました。全国各地から参加している高校生や先生方、京都大学の先生方に対して研究成果を発表し、また、参加者からの質疑に应答することで他の参加校とも学術交流を深めました。



【生徒の感想】

- ・部活動としての取り組みや前年度からの引継ぎなどにより長時間研究に力を割いている参加校や、自分たちよりも短期間で調査量と妥当性の検証を確保している参加校もあり、圧倒された一日だった。
- ・ポスターセッションに参加してみて、自分たちの研究の中にある甘さや発展の余地を知ることができ、これまで以上に自分たちの研究への理解度が上がった。

★「ミライシコウ金沢(高校生探究成果発表会・高校生国際会議)」に参加

令和8年3月14日(土)金沢大学で第4回ミライシコウ金沢が開催されました。「高校生探究成果発表会」には2年生の4グループ13名が参加し、今年度取り組んできた課題研究の成果を発表しました。「偽中国語、最明瞭の伝達条件何？」をテーマに発表した国語1班がポスター賞を、「落雁の木型を求めて和菓子屋へ～旧加賀藩・旧富山藩の比較～」をテーマに発表した社会科学1班が探究奨励賞を受賞しました。「高校生国際会議 Youth and Climate Action Conference2025」には1年探究科学科4名が参加し、世界規模の気候変動に関する講義を聴いて持続可能な社会の実現についてディスカッションしました。また、同時開催された金沢大学高大接続ラウンドテーブルにも2年生1名が参加し、「探究活動を探究する」というテーマで協議し、各々の活動実践や課題意識を共有しました。



会場には石川県、福井県、東京都、宮城県など様々な地域から多くの高校生が集まり、活発な意見交換が行われていました。他校生徒との交流を通して大いに刺激を受け、有意義な経験となりました。

東大金曜講座(2026 夏学期)がスタート

令和8年4月17日(金)から、東京大学教養学部主催の「高校生大学生のための金曜特別講座」2026年度夏学期が開講され、5月8日(金)には、藤井輝夫東京大学総長による講座「領域を越えるテクノロジー——海中ロボットからマイクロフルイディクスへ」を15H、16H教室と視聴覚室で視聴しました。会場では生徒約80名が講義を受講しました。



【生徒の感想】

- ・海中ロボットという「巨大な空間」を扱う技術と、マイクロフルイディクス(微小流体技術)という「目に見えないほど小さな世界」を扱う技術が、実は地続きであるということに驚いた。
- ・今自分が学んでいることが、関係がないように思える別の分野につながるかもしれないので、様々な体験をしてみたいと思った。